

災害の語り継ぎ

Telling Live Lessons from Big Disasters

小林 郁雄 KOBAYASHI, Ikuo

まちづくり株式会社コー・プラン CO-PLAN Inc.

阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク

Restoration from Hanshin Earthquake Disaster/SUPPORTER's NETWORK
for community development "Machizukuri"

<ikuo-ko@kcc.zaq.ne.jp>

自己紹介 Self Introduction

●■▲小林郁雄 KOBAYASHI, Ikuo
<ikuo-ko@kcc.zaq.ne.jp>

1944年 名古屋で生まれる Born in NAGOYA

1967年 神戸大学建築学科卒業 KOBE Univ.

1969年 大阪市立大学大学院修了/ 都市・計画・設計研究所 Team URbanistico

1986年 コー・プラン代表 CO-PLAN Inc. CEO(2005~アドバイザー Adviser)

1995年 阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク 代表世話人
Restoration from Hanshin Earthquake Disaster/SUPPORTER's NETWORK
for community development "Machizukuri" Leader

2002年 阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター上級研究員
(~2021) 世界災害語り継ぎネットワーク代表 TeLL-Net(2006~)
the Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial
Disaster Reduction and Human Renovation Institution
Senior Researcher

2003年 神戸山手大学教授(~2013)
Kobe-Yamate Univ. Professor

2006年 NPO法人神戸まちづくり研究所理事長(~2015)
NPO Kobe Machizukuri Institute Chairman

2009年 兵庫県立大学特任教授(~2022)
Hyogo Pre. Univ. Professor



Transfer live lessons to the world, to the future



Secretariat

Secretary: Ikuo Kokuyashi (Senior Researcher, Disaster Reduction and Human Renovation Inst.)
c/o Project Division, Disaster Reduction and Human Renovation Institution
1-5-2 Wakinohama kaigan-dori, Chuo-ku, Kobe, Hyogo pref, Japan, 651-0073
TEL: 078-262-5067 FAX: 078-262-5082 E-Mail: tellnet@dri.ne.jp
<http://www.dra.ne.jp/tellnet/>

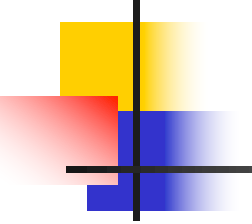
TeLL-Net

International Disaster Transfer Live Lessons Network

Transfer live experiences and lessons over to others,
even to succeeding generations



<http://www.tellnet.jp/>

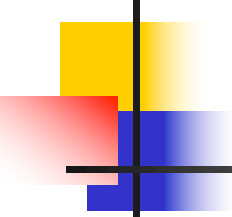


TeLL-Net Telling Live Lessons Network

世界災害語り継ぎネットワークとは何か？

- TeLL-Netは、国や地域を越えて大災害を語り継ぎ、これからの自然災害に備え、被災者を少しでも減らすことへの貢献を目的とする国際ネットワークである。
- 阪神・淡路大震災で生まれたTeLL-Net（世界災害語り継ぎネットワーク）は、神戸を核に、世界各地の自然災害被災地をつないで、「災害語り継ぎ活動」を今後も展開していく。

世界災害語り継ぎネットワーク TeLL-Net
International Network of Telling Live Lessons
from Disasters



TeLL-Net Telling Live Lessons Network

世界災害語り継ぎネットワークとは何か？

040208 「国際防災・人道支援フォーラム2004」

(国際防災・人道支援協議会DRA+兵庫県)

- 「大災害を語り継ぐ」ことの重要性や有効性について国際社会へ提言

050118 「国際防災・人道支援フォーラム2005」

(阪神・淡路大震災10周年)

- 被災者の視点から『大災害を語り継ぐ』ことは、これからの災害で被災者を少しでも減らすことにつながっていく

060120 「世界災害語り継ぎネットワークTeLL-Net」

設立総会 (事務局：人と防災未来センター)

- 世界の自然災害への備えは、未だ全く脆弱である。その防災・減災への取り組みを「語り継ぎ」という形で、世界レベルでネットワークすることが、このTeLL-Netの使命であり、世界各地の市民連帯という形でのネットワークが目標である。

060120 「世界災害語り継ぎネットワーク TeLL-Net」 設立総会

シムル島ダーミリ市長 (Drs. Darmili, Municipal Mayor of Simeulue, Aceh, Indonesia) の報告 (2006 年 1 月 20 日 TeLL-Net 発足記念フォーラム) 「地域の英知が命を救う **Local Wisdom that saves lives**」で、次のように話していた。 <http://tellnet.jp/jp/highlights/index.html>

[大津波では全ての家が被害を受けた。7000 が全壊、6500 が損傷した。全ての病院等施設が損害を受けた。学校の 75%、300 の宗教的施設が被害を受けた。2 万人の生徒が仮設のテントで学校生活を送ることとなった。 3 万 3000 人がいまだに元の生活に戻っていない。]、にもかかわらずである。



◆シムル島の位置



◆シムル島のインド洋大津波



◆ダーミリ市長夫人が SMOOONG を歌う

[2004 年 12 月 26 日の出来事、地震を感じた。引き波が起こる、魚が砂の上で跳ねる。誰かが叫んだ「SMOOONG! 津波だ!」。次々と逃げながら皆が「津波だ!」と叫び、丘へ向かった。皆の避難を促したスモン (津波) に関する地域の知恵。1907 年の津波でシムル島に大きな被害があり、年長者は次世代に話と歌で教訓を引き継ぎ、津波の特徴を説明した。何をすべきか、何をしてはいけないかを伝えている。]

阪神・淡路大震災 15周年 2010年3月20～22日神戸





世界災害語り継ぎフォーラム

阪神・淡路大震災15周年 2010年3月20～22日神戸

語り継ぎの動機：

私たちはなぜ、誰に対して、何のために災害体験やその教訓を語り継ぐ（※参照）のでしょうか？ 語り継ぎに込められた思い、メッセージは何なののでしょうか？

語り継ぎの意義：

語り継ぎの意義をどう考えたら良いのでしょうか（語り継ごうとする人々にとって、語り継ぎの受け手にとって、被災地や社会全体にとって・・・）？

語り継ぎの方法：

語り継ぎを効果的なものとするためにはどのような方法があるのでしょうか？ 語り継ぎにあたって（災害）ミュージアムはどのような役割を果たすことができるのでしょうか？

※本フォーラムでの「語り継ぎ」とは、人が言葉で直接的に語り継ぐだけでなく、写真や映像、遺留品などの事物、記念碑、音楽や絵画などによって間接的に語り継ぐことも指すものとしています。



—災害の記憶をつなぐ—
 —Telling Live Lessons from Disasters—

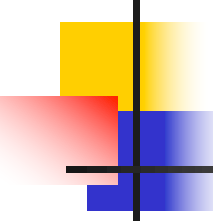
2020年1月24日～26日、神戸 / 24-26 January 2020, Kobe

2020 世界災害語り継ぎフォーラム実行委員会
 Implementing Committee of 2020 International Forum on Telling Live Lessons from Disasters



阪神・淡路大震災25周年 2020年1月24～26日神戸





世界災害語り継ぎ(TeLL-Net)フォーラム2020 検討テーマ

語り継ぎのパワー

実際に起きた事柄や被災者にまつわる事物や資料が訴える力は大変強い。この大きなパワーを被災者の心の復興に繋げ、被災地全体の復興に繋げていくにはどうしたらいいか？

語り継ぎの条件

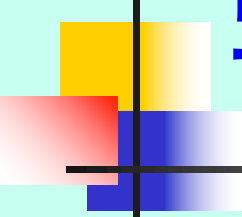
大多数の被災者にとって災害時のつらい体験できるだけ思い出したくないのは自然なことだ。自発的な語り継ぎの動きの芽をどのように育てていったらいいか？被災地同士の交流は語り継ぎにどのように資するか？

語り継ぎの方法

災害の語り継ぎの方法は多様である。災害を直接体験していない人々の間接的な語り継ぎもある。地域年中行事によって災害体験を息長く語り継いでいる例もある。災害から時が経ち語り継ぎの方法を変えていく必要もある。

ミュージアムの役割

実体験に基づく語り継ぎのパワーは大きいがそれは本来的に主観的かつ断片的である。被災地が直面した災害の過程を後世に伝えていくには周到かつバランスよく総合化していくことが必要で、ミュージアムには大きな役割がある。



世界災害語り継ぎネットワーク

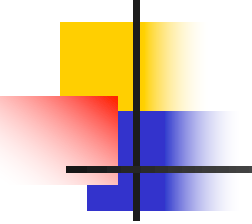
TeLL-Net

<https://www.tell-net.jp/>

記録・提言・教訓によって、直後の緊急対応・応急処置、災後の復旧・復興について多くの学んできたことを各地に伝えるべく、さまざまな活動が被災地を中心に発信されてきた。しかし**重要なことは、何を伝えるかではなく「どのように」伝えるかが問題である。**

記録ではなく記憶を、教訓ではなく文化として、広く世界の隅々まで、長く時代を超えて伝承し、災害からの活きた大切さを語り継いでいくことこそが防災・減災に大切だ。その最も凝縮した活動が、TeLL-Net である。

(Telling Live Lessons/Disaster Storytelling Network)



被災地交流

被災市民レベルでの草の根交流もまた、語り継ぎの大きな流れをつくっていく

- 1999年9月の台湾921地震からの復興では、阪神大震災の市民まちづくり復興を手本に、社区營造活動がその中心となった。
- それは、2004年10月の新潟・中越大震災の中山間集落復興に受け継がれ、
- さらに2008年5月の中国四川・汶川地震復興につながっていかうとしている。

こうした被災地市民まちづくり交流の最も象徴的な出来事として、神戸・長田の鷹取救援基地で10年間地元まちづくりを支えてきた鷹取ペーパードームが、台湾最激震地・埔里の桃米生態村での紙教堂再生であろう。

鷹取ペーパードーム建設 1995KOBE



鷹取ペーパードーム(紙教堂)解体・輸送 2005



桃米・紙教堂再生

2009 Taiwan Puli



神戸とニューオリンズの 被災地交流 2005~

□2005年8月末ニューオリンズを襲った超大型ハリケーン・カトリーナ災害と神戸の被災地交流もまた、語り継ぎ活動を軸に積み重ねられている。2006年10月トーマス・ニューオリンズ市会議長はじめ8名が国際交流基金CGPのプログラムで神戸を訪問し、震災復興における市民まちづくり活動に大きな示唆を受けた。2007年9月にはルイジアナ州立博物館でのシンポジウム「阪神大震災とハリケーン・カトリーナ」に招待され、神戸から「震災語り継ぎひまわり団」を結成し、語り部による「語り継ぎしていかねばならない震災の体験・復興への取り組み」の話をした。さらに、2008年10月には、復興の交流だけにとどまらず、共通の伝統的文化である「神戸とニューオリンズのジャズ交流」が鷹取・六甲道地区などで行われた。✧

□阪神・淡路大震災で生まれたTeLL-Net（世界災害語り継ぎネットワーク）は、神戸を核に、世界各地の自然災害被災地をつないで、「災害語り継ぎ活動」を今後も展開していく。✧



◆市会議長一行（松本せせらぎ06年）□



◆震災語り継ぎひまわり団（07年）□ □ □



◆ジャズ交流（たかとり教会中庭08年）✧

Exchange of Jazz and Food

2008 Oct. 19th in Takatori Catholic Church



その他の多くの研究交流

2009 Feb. 8, 11 Recovery Exchange

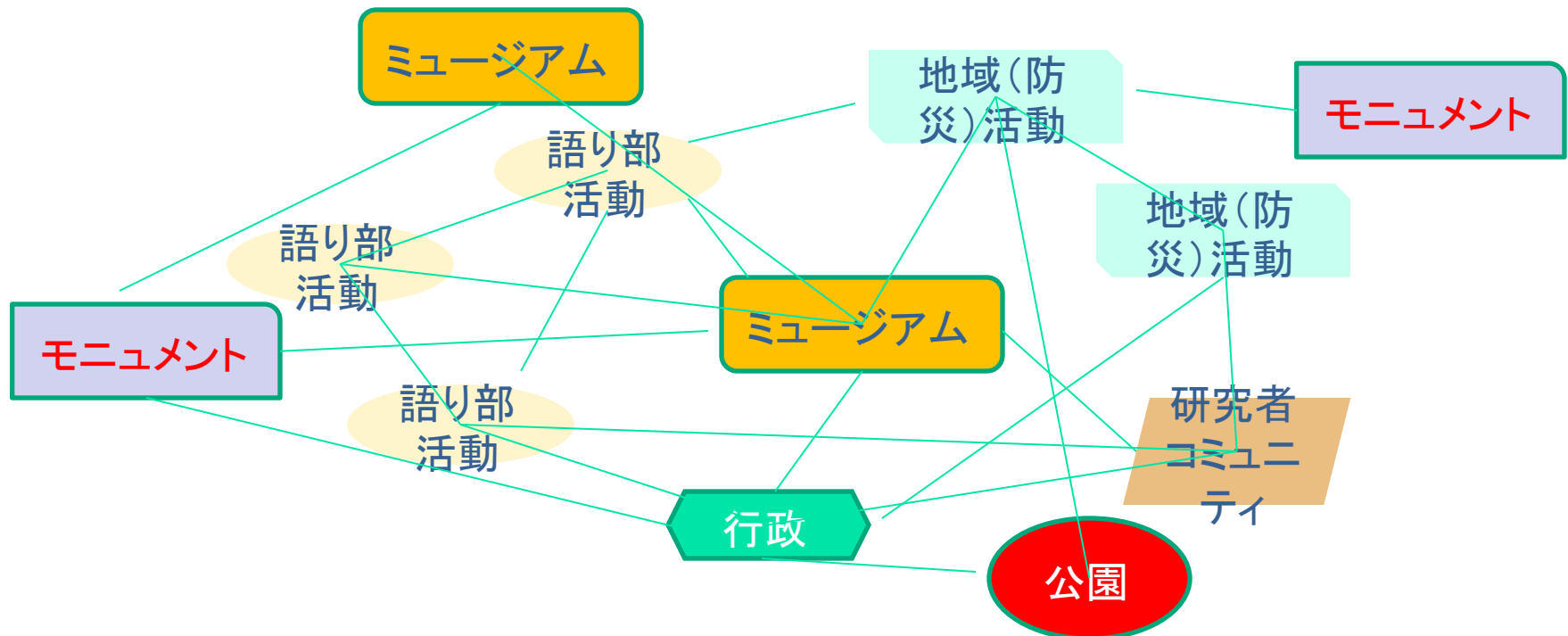
Mr. Steven Bingle Ms. Barbara Hill

Prof. Robert Olshansky



個別の語り継ぎ、災害の全体像の記述

- 防災(減災)総合ミュージアムではなく
 - さまざまな活動母体のコンソーシアム
- インフォメーションセンター機能を持つミュージアムへ



Menu

⑤ 概要

⑤ ご挨拶

⑤ 規約

⑤ メンバー

⑤ 設立宣言

⑤ 設立総会
(2006年1月 神戸)

⑤ イベント一覧

⑤ 世界各地の災害と
語り継ぎ活動

世界災害

⑤ 語り継ぎフォーラム
(2010年3月 神戸)



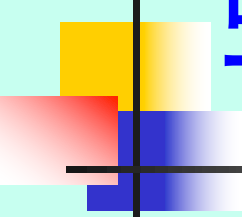
更新情報

- ⑤ 2009/11/30 :
[世界災害語り継ぎフォーラム](#)の情報を更新
- ⑤ 2009/10/23 :
[世界災害語り継ぎフォーラム](#)の情報を更新
- ⑤ 2009/10/03 :
[世界災害語り継ぎフォーラム](#)にかんするページを設置
- ⑤ 2009/01/26 :
第5回世界災害語り継ぎ公開セミナー
[「ハリケーン・カトリーナを語り継ぐ」](#)
Laurie A. Johnson (ニューオリンズ復興統合計画担当者)

パンフレット



日本語版
英語版



世界災害語り継ぎネットワーク TeLL-Net

多くの人々が災害の体験や教訓を他の地域や将来の世代に語り継ぐ努力を続けてきた。写真や映像、遺留品などの事物、楽曲や絵画、記念碑を通じた語り継ぎも重要である。被災地で多くの人々や組織が同じような活動を行なっている。

私たちは、そうした取り組む人々や組織による国境を越えた交流や学び合いを支援し、声を合わせて語り継ぎの大切さを訴えていきたい。

災害体験は風化する。それに対処し語り継ぎを継続し、深めていくことで、思いを新たに、災害に強い社会の形成に向け、努力していきたい。様々な人々の賛同、協力を得て、一緒に進めていきたいと希望している。